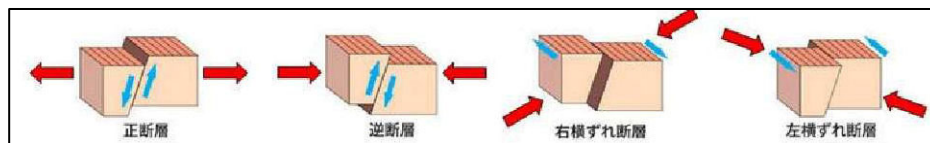


1. 活断層とは何か？

地震が起ると、「活断層が発生源」というようなニュースを聞くことがあると思います。さて、「活」断層とは何なのでしょう？活断層を考える前に、まず「断層」について考えてみましょう。通常、地下には固い岩石がありますが、その岩石中にはたくさんの割れ目があります。その割れ目は通常はしっかりくっついていますが、大きな力が加わると割れ目がずれてます。両側の地層や岩石がずれているものが「断層」です。断層は、そのずれ方によって、正断層、逆断層、横ずれ断層があります（下図（国土地理院ホームページより）；赤矢印が加わる力の方向、青矢印がずれる方向です。

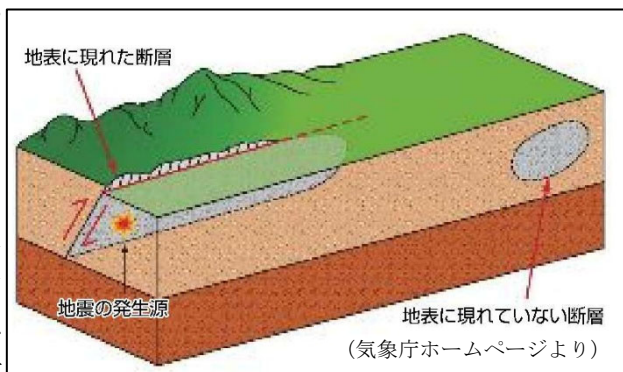


この断層のうち、特に数十万年以降に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層のことを「活断層」といいます。260 万年前以降に活動した証拠のある断層を「活断層」と呼ぶこともあります。活断層には、以下のような特徴があります。

- ①**一定の時間をおいて、繰り返し活動する。**断層面の両側に加わる力によるひずみが限界を超えると、断層に沿って岩盤が動きます。
- ②**いつも同じ向きにずれる。**活断層に加わる力の向きはいつも変わらないので、ずれる方向はいつも同じです。
- ③**ずれの速さは断層毎に大きく異なる。**活断層は繰り返し動き、ずれが蓄積されますが、その蓄積していく速さは断層によって違います。
- ④**活動間隔は極めて長い。**日本には活断層がたくさんあるので、いつも動いているように思えますが、活断層が動く間隔は、1000 年から数万年と長いです。
- ⑤**長い断層ほど大地震を起こす。**断層の長さが長いものほど、大きな地震を起こす可能性があります。

活断層は、一定の間隔で繰り返しずれ動くように活動し、地震を起こします。活断層が動くと大きな災害となりますので、活断層の特徴を知って、「自宅の近くに「活断層」があるかないか」、「発生時期予測」などを知っておくことは自分の身を守る点で重要なことだと思います。ぜひ、気象庁のホームページなどで確認してみてください。

日本には地表に現れているずれの跡やトレンチという調査方法で、2,000 以上の活断層が見つっています。ずれは必ずしも地表に現れているとは限りませんし、活動が大きくなければずれは地表に現れません。地表のずれの跡も浸食や土地の変化でわからなくなってしまう場合もあります。まだ地表に現れていない**隠れた活断層がある**ということです。活断層が確認されていない場所でも被害をもたらすような地震が起きることを知っておいて欲しいと思います。



（黒墨秀行）